

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 31日

事業所名 プレミアム中尾

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%		居室を分けたり、換気・風通しを意識した支援を行っていた。	今後も、状況に応じて適切なスペースを意識して、コロナ禍での適切な距離も同時に実施していく。
	2	職員の配置数は適切である	100%		利用者数・スタッフ数を常に意識し、適切になるように声掛けあっている。	十分な配置をしている為、継続して行えるようにする。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	43%	57%	階段や段差が多く、設置は難しい。	階段や段差については、手すりをういて安全に移動できるようにしているが、職員が付き添い確実に保安が出来るように体制を整えている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%		スタッフ間のミーティングにて共通理解を深めるようにしている。	今後も、ミーティングや日々の情報交換から、支援内容の評価、改善の機会を持ち、職員間で情報を共有して取り組んでいく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%		送迎の際や連絡帳にてコメントを頂き、保護者様の意見は常に把握している。	保護者様が、言いにくいことや相談しにくいことにも焦点を当て、相互に改善していけるように取り組んでいく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%		公表している。	今後も、全てホームページにて公表していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%		内部・外部による監査を行い、常に自分達で改善をしていく体制をとっている。	今後も、第三者の目を入れながら、業務改善、資質の向上に努めていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	86%	14%	充分でない。	誰でも外部研修に行けるように確保しているがコロナ禍により今年では行っていない。毎月内部での研修は実施して支援に繋げている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%		保護者と日頃より密に情報交換をしている。	課題分析をしっかりと見極め、計画に組み込んでいます。聞き取りを行い保護者様のニーズを十分に理解することを継続して、状況変化にも対応できるように常に計画を念頭にした支援を行っていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%		詳細に理解しやすいようにツールを用いている。	契約時に行うが、随時書き加えて、最新の物を共有していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	86%	14%	全員で行えていない所がある。	全体で集まれる時間が取れなかったことを踏まえて、書面での情報の一致や個別ミーティングを行ってから全体共有を図る。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%		日々の活動案を、都度検討している。	利用者の成長に合わせて次のステップに進めるようにしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	86%	14%	状況に応じた支援内容に変更して取り組んでいる。	一人一人に合ったスキルタイム(お取組み時間)を用いて、課題に取り組み、達成感を感じられる体制を作っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%		利用者の興味があるもの、集中力に繋がるものを取り組んでいる。	集団活動と個別活動を上手に混ぜながら、子ども達の成長に合わせたものを計画していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%		出勤者による作業分担を行い、実施している。	ミーティングが行えない状況を作ることなく、優先的に打ち合わせの時間を作って取り組んでいく。また、その日の目標を提示して実行をしていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	86%	14%	当日に行うことが難しいことがある。情報は記録として残して次の日には話し合えるようにしている。	振り返りが出来ないことがないように、また当日以外でも行えるような体制を整えて情報の漏れがないように取り組む。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		毎日の支援記録を取り、検証している。	支援記録を今後も継続して記録し、検証・改善に努める。
18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%		保護者様との情報交換や、職員から見た状態を含めて見直しをしている。	ミーティング等で話し合い、議事録を基に必要性やタイミングを判断する。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%		組み込めるように見直しを行いながら取り組んでいる。	今後も継続して、活動に取り組んでいく。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%		担当者会議前に対象児の様子・課題等を話し合っている。	職員間で話し合った内容をもとに、代表者が今後も参加する体制を整えていく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%		学校との連絡体制は取れている。不明な点は都度担任の先生に尋ねている。	学校とは、今後も密に情報交換が出来るように、体制を整えていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	43%	57%	医療的ケアが必要な対象児はいないが、保護者との連絡体制は整っている。	医療的ケアは現在取り組んでいないが、必要な時は立案して取り組みたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	71%	29%	直接の情報交換は中々実施出来ていない。	契約時や担当者会議にて情報の共有を積極的に取り組んでいる。必要であれば都度連絡を図っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	71%	29%	保護者様の同意の上で行っている。または相談員を通して行っている。	各連携先と十分な情報共有が出来るように、体制を整えていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	43%	57%	実施は出来ていない。	専門機関との連携は必要時しかしていないが、研修は希望があれば参加できる体制を整えている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		100%	まったく機会がない。	現状、コロナ禍が収束しないうちは難しいと思われる。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		100%	まったく機会がない。	現状、コロナ禍が収束しないうちは難しいと思われる。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%		職員全員が意識を持って情報を交換している。	ミーティングだけでなく、送迎後の情報の交換や支援の振り返りを行うことで、一人一人に必要なことを、共有し理解を図っている、継続して取り組む。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	71%	29%	実施している。	保護者様のご要望を踏まえたうえで、必要だと感じたことをミーティング等で話し合い、アドバイスしている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%		契約時に説明を行っている。ご質問等があれば、都度対応しています。	契約時、また随時取り組んでいくことを継続する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		契約時、また随時説明を行っている。	どのように支援をしていくのか一緒に考え、皆で情報を用いて相談内容を確認して取り組んでいく。また、共通した応答を心がけていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		100%	保護者会の実施が、コロナ禍の為、実施出来ていない。	現状、コロナ禍が収束しないうちは難しいと思われる。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		苦情責任者を設置しており、即座に対応、解決できる体制を整えている。また、第三者窓口も設けている。	窓口を複数用意して、即座に対応できる体制を、強化して取り組みたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%		毎月頭に、保護者へ配布している。またFacebookの更新も定期的に行っている。	内容が固定化しないように職員がそれぞれ確認を行い、発信していくものを準備していく。
	35	個人情報に十分注意している	100%		取り扱いは厳重に行っている。	情報物の保管・持ち出しや処分の方については、職員間でも注意しあえる関係を作れている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%		理念に基づいて、しっかりとした配慮を行っている。	場面に合わせた支援グッズや手法を用いて、意思疎通が強化できるように配慮していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		100%	開かれてはいない。	情勢を検討しながら、実施を検討。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	86%	14%	マニュアルを策定しており、新聞にて公表しているが、保護者への周知が行き届いていない。	マニュアルについて、契約時に説明を行っている。職員は年間行事で取り組んでいる為、定期的な保護者への確認を検討していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%		定期的を実施している。業者を呼び、講習会を実施することもある。	訓練は定期的に利用者とともに緊張感を持って実施。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		定期的な研修を行い、意識付けを行っている。	必要な研修機会(外部研修)や、ニュース等の内容を取り入れて検討を行い、常に意識していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	43%	57%	定期的な研修を行い、意識付けを行っている。	契約の際に、多動性であったり、叱咤の飛び出し、他害の恐れ等、危険性を伴う場合には、腕を掴むことがあることを事前に同意を得ている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%		アセスメントに記載して頂いたり、保護者より誘発物質等の情報を頂いてから実施している。	今後も、十分に注意して継続対応する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%		都度作成しており、毎週検討会を開催している。	検討会の頻度を前年より多く取り、事故を予防していく。